



つなぐ

+believe

Vol.5 2016年

思いをつなぐ

願いをつなぐ

命をつなぐ

地域医療をつなぐ



CONTENTS

附属病院	P1	地域医療を見据えた大学病院の役割。	地域医療センター センター長 谷川 昇
	P2	私立大学だからこそできる地域への貢献。	附属病院 病院長 澤田 敏
	P3	研究マインドを若い人たちにつなげたい。	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 主任教授 岩井 大
	P4	なぜ肺がんは増え続けるのか。	呼吸器外科 主任教授 村川 知弘
	P5	麻酔科医はクールでタフ、目立たないことを誇りにする。	麻酔科 主任教授 上林 卓彦
	P6	実現したいのは小児麻酔という手技の確立と日帰り麻酔の普及。	麻酔科 (小児麻酔担当) 診療教授 大井 由美子
	P7	「がん治療緩和センター」を継承した「がんセンター」オープン。	がんセンター センター長 薦 幸治
	P8	遺伝学的な情報の特性を考慮しながら、段階的に遺伝医療をスタート! 「臨床遺伝センター」オープン。	臨床遺伝センター センター長 岡田 英孝
総合医療センター	P9-11	「関西医科大学総合医療センター」新本館オープン。	総合医療センター 病院長 岩坂 壽二
	P12	心臓外科医の醍醐味とは?	心臓血管外科 診療部長 診療教授 細野 光治
	P13	私たちが大切にしていること。	呼吸器外科 診療部長 金田 浩由紀
	P14	他の診療科にはない神経内科の醍醐味とは。	神経内科 診療部長 中村 正孝
香里病院	P15-16	「訪問看護ステーション・香里」オープン。	管理者 保健師 豊高 英代
	P17	小児科一般外来を担当しています。	小児科 病院教授 谷内 昇一郎
天満橋総合クリニック	P18	各専門医がそろった都市型の総合クリニック。	外来統括部長 北尻 雅則

私たちが考える「つなぐ」という思い。

私たちは地域医療を支えるみなさまとの相互理解を深め、より強固に、よりスムーズに医療連携を行っていくために、関西医科大学の附属4施設（関西医科大学附属病院、関西医科大学総合医療センター、関西医科大学香里病院、関西医科大学天満橋総合クリニック）の今をお知らせするとともに、みなさまのご意見を広く拝聴していきたいと考えております。本誌のタイトル「つなぐ+believe」には、医療をつなぐ、命をつなぐ、願いをつなぐ、そのためには医療機関同士の信じあえる心が支えとなるという思いを込めています。

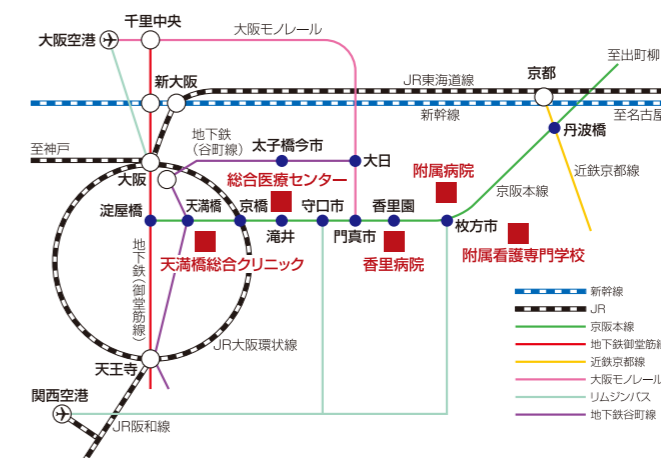


アンケートへのご協力ありがとうございました。

2015年春夏号でお送りさせていただいたアンケートに、計40件のご回答をいただきました。これからの「つなぐ+believe」の編集の質的な向上に役立たせていただきます。ご協力、本当にありがとうございました。



関西医科大学 地域医療センター



関西医科大学附属病院

TEL.072-804-0101(代) <http://www.kmu.ac.jp/hirakata>
〒573-1191 大阪府枚方市新町2-3-1 地域医療連携部 病診連携課(地域医療センター事務局) TEL.072-804-2742 FAX.072-804-2861

関西医科大学総合医療センター

TEL.06-6992-1001(代) <http://www.kmu.ac.jp/takii>
〒570-8507 大阪府守口市文園町10-15 地域医療連携部 病診連携課 TEL.06-6993-9444 FAX.06-6993-9488

関西医科大学香里病院

TEL.072-832-5321(代) <http://www.kmu.ac.jp/kori>
〒572-8551 大阪府寝屋川市香里本通町8-45 地域医療連携部 病診連携課 TEL.072-832-9977 FAX.072-832-9988

関西医科大学天満橋総合クリニック

TEL.06-6943-2260(代) <http://www.kmu.ac.jp/temmabashi>
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-7-31(OMMビル3階) TEL.06-6943-2260 FAX.06-6943-9827



●正面玄関のステンドグラス

関西医科大学総合医療センター 新本館オープン

(旧附属滝井病院)

平成28年 5月6日



関西医科大学
総合医療センター病院長
岩坂 壽二

2013年に始まったリニューアル計画の環として、5月1日(日)付で、名称を「附属滝井病院」から「関西医科大学総合医療センター」と改名するとともに、5月6日(金)、旧学舎跡地に新本館をオープンさせました。

「関西医科大学 総合医療センター」という名称に込めた思い。

10年前は「関西医科大学附属病院」という名前でした。その後、枚方に本院が移ったので、区別しやすい名称にするという理由で地名を名称に入れませんでした。しかし、本院とは違い、私たちの中心軸が研究や教育ではなく、医療だということを確認するとともに、今回「滝井」という地名を外すことにより、大阪北東部の広いエリアに密着した医療センターでありたいという思いも込めています。

さらに「総合医療センター」という名のもとに、臨床医が医療の意味を常に考えて患者さんに接してほしい。本当

の医師とは何か、本当の看護師とはどうあるべきか、病気を治すというだけではなく、患者さんにとって何が必要かを知っている医師であり、看護師であってほしい、という思いも、この名称に込めているのです。

2010年より、リエゾン医療を重視してきたのは、そうしたい思いとつながっています。ひとことという病と向き合う患者さんの心のケアを重視する医療を意味します。

奇跡のような スムーズな移転と 新本館のオープンを実現。

4月30日(土)から5月4日(水)まで5日間をかけて医療機器の移設を行い、5月3日(火)から5月5日(木)の3日間で219人の患者さんの移送を無事完了。5月6日(金)に新本館のオープンを実現することができました。スタッフ全員が一丸となってアクシデントを起こさないように、入院患者さんには最小限の負担で済むようプランを練り、工夫を凝らし、細心の注意を払いながら実行した結果がもたらした奇跡に近い完璧な移設、移送だったと自負しています。

大切な人を受診させたくなる 病院かどうか。

総合医療センターが目指しているのは、建学の精神である「慈仁心境」に則り、地域に密着した患者さん本位の医療センターです。連携各科がチーム医療を実践するため、22のセンターを有しています。

「大切な人を受診させるなら、この病院がいい」と思っていただけのように、医療の原点を見つめながら、新本館をオープンさせました。

提供しながら、専門性の 高い医療を追求。

地域密着の大きな課題のひとつとして、救命救急センターの充実を図りました。ICUが8床から14床になるほか、新たにGICU(総合集中治療室)を設置。世界初の機能を持つIVR/CTを備えたハイブリッド手術室を有し、断らない救命救急センターの姿勢をこれまで通り貫いています。心臓血管病センターは診療教授の招聘を含め、



●新本館正面玄関

2階までの吹き抜けを利用し、正面を全面ガラス張りしていますが、直接の陽射しは、玄関の大きな庇が遮り、優しい光だけを取り入れています。



●新本館の入口

赤を使った表札スタンドと掲示板が印象的です。



●院内調剤窓口



●新本館4階にある屋上庭園

リエゾン医療を重視してきた 実績と成果を生かして。

患者さんの心身のケアに 努めるリエゾン医療を さらに進化。

私たち総合医療センターの大きな特長は、精神科病棟を独立して有していること。この精神科が推進する「リエゾン精神医学」を実践し、高度医療の隙間に潜む患者さんの不安、恐れ、失意などを軽減し、安心して医療を享受できる環境をつくる努力をしていることです。リエゾン医療チームは救急救命センターの中に設置され、あらゆる診療科と連携をとりながら、

治療と心身のケアを同時に行う医療を実現しています。こうした取り組みの延長として、本年1月、大阪府自殺未遂者支援センター（IRIS アイリス）の本部を

救急救命センター内に設置し、関係機関との情報共有や連携を通じて、自殺未遂者本人と家族のための支援ネットワークを構築しています。先進医療とともに精神的なケアに力を入れているのは、当センターならではの取り組みです。

**平成30年のグランドオープンを目指して北館、南館の
リニューアルは今も続いています。**

5月4日（水）から改修工事がスタートした南館の完成は平成28年10月16日（日）を予定し、北館は7月3日（日）に完成予定です。旧本館の解体は5月9日（月）にスタートして、翌29年11月30日（木）くらいには完了する予定です。1年半も期間を要するのは、現在も病棟の一部に患者さんが残っておられるからです。まだリニューアル工事が続いているという緊張感をもって私たち管理者は活動しています。緊張感というのはリニューアルが終わるまでは患者さんにも職員にも、多少なりともご不便をおかけしているという張り詰めた気持ちや配慮を持ち続けるということなのです。

●グランドオープンまでのスケジュール

南館改修	平成28年5月4日（水）～平成28年10月16日（日）
北館改修	平成28年5月11日（水）～平成28年7月3日（日）
旧本館解体	平成28年5月9日（月）～平成29年11月30日（木）
地下連絡道整備（北ルート）	平成28年8月16日（火）～平成29年2月28日（火）
地下連絡道整備（南ルート）	平成28年10月16日（日）～平成29年9月15日（金）
ホスピタルガーデン整備	平成29年3月16日（木）～平成30年4月15日（日）
グランドオープン	平成30年4月



●ホスピタルガーデン
さわやかな風が通り抜ける中庭は入院患者さんや外来患者さんの憩いの場。新本館と北館・南館が3方を囲んでいます。



●機能的に配置された外来受付



●診察室前廊下



●内視鏡専用手術室（2室）



●世界初IVR/CTを備えたハイブリッド手術室（来春完成予定）



●新しい病室
すべて4床室にし、プライベートを守ることでゆったりとしたレイアウトになっています。

心臓血管外科 診療部長 着任

平成28年 4月1日



心臓血管外科 診療部長
診療教授
細野 光治

心臓血管病センター 立ち上げのために。

3月までは大阪市立大学医学部の心臓血管外科准教授をしておりました。関西医科大学総合医療センターの心臓血管病センター立ち上げに際して、心臓血管外科の充実を図る意図で教授選の公募があり、センター長の川副浩平教授から市立大の柴田利彦教授を通じてお声をかけていただきました。その後、柴田教授からの推薦をいただき、こちらに着任することになりました。

心臓外科が対象とする疾患は大きく3つの分野に分かれています。1つは弁膜症、2つめが虚血性心疾患といって、狭心症や心筋梗塞などです。そして3つめが大血管の病気で、いずれも数多くの症例を経験してきました。中でもいちばん得意なものをあえて挙げるのであれば、「冠動脈バイパス手術」。

得意分野をあえて 挙げるとすれば、 「冠動脈バイパス手術」。

心臓外科が対象とする疾患は大きく3つの分野に分かれています。1つは弁膜症、2つめが虚血性心疾患といって、狭心症や心筋梗塞などです。そして3つめが大血管の病気で、いずれも数多くの症例を経験してきました。中でもいちばん得意なものをあえて挙げるのであれば、「冠動脈バイパス手術」になると思います。正式には心臓と直接結ばれる動脈のことを冠動脈といいますが、私たちは略して冠動脈といっています。その血管が詰まることにより心臓の筋肉に血液がいかなくな

る、その状態によって狭心症か心筋梗塞かを判断します。循環器内科の先生はカテーテルを使って狭い血管を広げる治療をされますが、心臓外科医は血管を新しくどこからとってきて、橋渡しをするバイパス手術をします。患者さんの症状や状態によって、どの方法が良いかを判断し、患者さんにも選んでもらいます。

心臓外科医の醍醐味とは？

次の瞬間死んでいたかもしれないという患者さんが、歩いて元気に帰られるときの感動は外科医として本当に嬉しい瞬間です。患者さんの中には、「こんなに簡単に良くなるのだったら、怖がらずにもっと早く手術をしてもらえばよかった」という方も多いです。そんな患者さんのうれしい言葉を聞けるのも私たちの特権かもしれません。この仕事をやってよかったと実感することは多いです。

自分が患者だったら、 こんな先生に 診てもらいたいかどうか。

心臓外科の医療は日進月歩です。昨日まではなかった技術で命を救えることがあります。心臓外科医はその最先端の技術を常に身につけていかなければならない仕事です。「心臓外科医は格好いい」という、今から思うと恥ずかしくなるような思いで選択した分野ですが、自分で選んだという覚悟があり

ます。きっかけは人それぞれです。しかし、自分で選んだという覚悟が、心臓外科医としての誇りを汚したくないという思いを生み、あらゆる困難なことを支えるバネになっています。

常に高い技術と医療を提供するのは、患者さんの命を預かる心臓外科医なら当然のことです。それを超えて、患者さんにとっての誇りを、私たちが大事にしています。例えば、日曜日に患者さんの様子を見に行くことがあります。手術医としての関わりだけではなく、この手術に立ち向かおうとする患者さんに寄り添い、応援するのも私たちの仕事だと考えています。前向きな気持ちを先生からもらったと思ってもらえるような外科医でありたいと思います。「自分だったら、この先生に診てもらいたいかどうか」。このことをいつも自分に問いかけるようにしています。

細野 光治（ホソン ミツハル） プロフィール

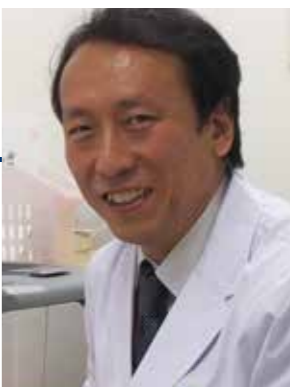
- 学歴
平成6年3月 大阪市立大学医学部卒業
平成12年3月 医学博士 大阪府立大学大学院医学研究科
平成13年5月 大阪府立大学第2外科 心臓血管外科内高
平成20年1月 アムニエルダム大 Academic Medical Center 助産師
平成27年10月 大阪市立大学医学部心臓血管外科科学講師
平成28年4月 大阪府立大学大学院医学研究科 心臓血管外科准教授
●所属学会等
日本外科学会指導医専門医
心臓血管外科専門医
心臓血管外科専門医認定機構指導者
日本循環器学会認定専門医
日本胸部外科学会認定医

呼吸器外科

診療部長

就任

平成28年 3月1日



呼吸器外科
診療部長

金田 浩由紀

10年ぶりに本格的な治療を再開。

10年前に実施された、附属病院の枚方移転を受け、呼吸器外科も全面的に移設しました。この間、滝井地区では呼吸器外科手術を行っていません。新病院開設に伴い、本年より、ようやく本格的な診療を再開することになり、私が診療部長に就任させていただきました。これまで枚方の附属病院で、肺がんをはじめ胸腺腫、縦隔腫瘍、気胸等、さまざまな手術実績を重ねてまいりました。診療科を再開するにあたり、術後の身体的な負担を軽減した低侵襲手術を中心に、患者さん本位の治療を目指していきたくと考えています。

患者さん本位の治療とは。

治療の特色としては、手術効果の最大化と手術創の最小化という両立を目指しています。傷口が小さければ患者さんへの負担も軽減されます。技術的には難易度も高くなりますが、腫瘍部分の迅速な摘出を実現しながら、術後のスピーディな回復も同時に大切にしています。枚方の附属病院で村川知弘教授から指導を受けた完全鏡視下手術もそのひとつです。こちらでは研修医をいつも抱えているわけではないので、教育的な側面より患者さん一人ひとりにあった個別的な治療に焦点をあてていきたいと思っています。設備的にも充実していますので、いろいろな選択肢の中から、本当に患者さんにふさわしい方法で、治療にあたりたいと考えています。

私たちが大切にしていること。

大事にしていることは、患者さんにはできるだけ専門用語を使わずに、わかりやすい言葉で説明していくということと、EBMの実践を心がけ、患者さんにデータ等を見せながら、一緒に治療方針を相談していくことです。

に治療方針を相談していくことです。EBMとは、個々の患者さんの治療に関わる意思決定を、最新かつ最良の根拠（エビデンス）をもとに、押しつけない、偏らない、患者さん本位の一貫性をもって行っていくことです。例えば、予後が長い方がいいと決めつけるのではなく、客観的なデータで術後の経過を治療法に沿って説明した上で、患者さんの選択を尊重するということです。治療法の目的や意義は説明しても、患者さんの価値観や思いを決めつけないことと言ひ換えることもできます。

必要な情報を提示し、治療方針を一緒に考える。

4月に肺がんの摘出手術をした患者さんがいました。手術できる限界までがなが進行した症例で、他の病氣も抱えていたため、呼吸器内科の治療方針は手術をしない、抗がん剤の治療もしない、抗腫瘍的な治療は何もしない、症状が出てきたらそれに対する緩和ケアを行うという方針でしたが、念のため外科でも診断を、ということで、私が診させていただきました。リスクも考えられましたが、手術によってがんをきれいに切除できると診断しました。高齢の患者さんでしたが、患者さん本人がその可能性にかけてみたいということでした。結果、手術ですべての腫瘍を切除でき、術後の経過も順調です。このように、内科と外科での診断の違いがあっても、

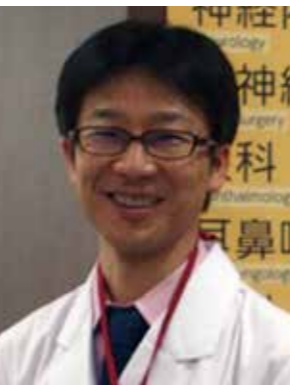
患者さんの意志を尊重して治療方針を最終的に決めるということを大切にしています。その患者さんはリンパへの転移等もみられ、ガイドラインでは術後に化学療法を受けると予後の生存率が高くなるというデータがありますが、当初から化学療法はしたくないというご希望でしたので、利点と不利益を説明した上で、患者さんの気持ちを優先し、化学療法はしないことにしました。副作用についても、必ずしも患者さんが思っておられるような症状がでるとは限らないケースもあります。常に最新の医療情報をお伝えした上で、患者さんの意思を尊重するということが大切になっています。

神経内科

診療部長

就任

平成28年 4月1日



神経内科
診療部長

中村 正孝

3年ぶりの本格的な再スタート。

神経内科はもともとこちらの旧附属滝井病院だけで診療を続けていた診療科でした。3年前に関西医科大学の新学舎が枚方に完成したのを機に、本院に神経内科を移し、医局スタッフ全員が移動しました。その後の3年間は週2回の初診のみを行い、入院の必要がある患者さんには、枚方へ移っていたいていました。ですがこの度、新本館のオープンをきっかけに、神経内科の本格的な診療を再スタート

させることになりました。枚方では主に脳卒中と一般神経内科を、こちらでは神経難病と呼ばれる病氣を中心に診るようになっています。

神経内科とはどんな病氣を扱うのか。

心療内科や精神科と混同されていることもあり、意外と知られていないようです。精神科は主にうつ病や躁病など精神的な問題を扱い、心療内科は心身症を主に扱います。精神的な問題や心理的な問題からではなく、脳や脊髄、神経、筋肉に疾患があり、体が不自由になる病氣を扱うのが神経内科です。当科では神経内科の対象疾患すべてを扱いますが、とくに神経難病と呼ばれるものに重点を置いています。神経難病とは、はっきりした原因や治療法がないもの、具体的に運動ニューロン病、脊髄神経変性症、多発性硬化症、重症筋無力症、パーキンソン病、進行性

核上性麻痺などがあります。これらの疾患は根本的に直すことは難しいけれど、リハビリテーションを組み合わせることで、日常生活を改善する治療は可能です。

他の診療科にはない神経内科の醍醐味とは。

他の診療科と違うところは、脳や神経、筋肉の疾患がとて広範囲で、診断のつかない難病も多く抱えていることです。どう治療すればいいかがはっきり決まっていないうものも多いといえるかもしれません。研修医のときに感じたのは、循環器や消化器系は決まったルーチンな検査や治療のお手伝いをするといったイメージが強かったのですが、神経内科はバラエティに富んでいると感じ、さらに診断ができていない患者さんが多いことにも驚いたものです。当時、慣れないなりに検査をして、誰も見当がつかなかった病氣を診断できたとき、教授でも見たことがないような症例を発見したこともあり、とてもやりがいを感じたことを覚えています。

治療法や原因が解明されていない難病を扱っているからか、神経内科には謎を1つずつ解いていくよ

うな醍醐味があります。

神経内科で、これから目指したいこと。

新たに難病指定されたものの中には、神経内科が扱う病氣も多く含まれています。さらに北河内エリアでの患者さんも増えています。3年前のように、医局全員が枚方の本院へ移動することで、他のエリアの患者さんにご負担をかけることがないよう配慮しました。地域にしっかりと根をはった治療を行うとともに、神経難病のケアと治療実績を積み重ね、新たな治療法の開発にも、力を入れていきたいと考えています。

中村正孝ナカウラ マサタカ

プロフィール

●職歴

平成15年10月 天理よつ相談所病院 神経内科 医師

平成21年12月 関西医科大学 神経内科 助教

平成23年6月 米国Mayo Clinic Jacksonville Department of Neuropathologyへの留学

平成28年4月 関西医科大学 神経内科 講師

●所属学会等役職

日本内科学会（総合内科専門医）

日本神経学会（指導医・専門医）

日本神経病理学会

日本脳卒中学会

日本神経治療学会

関医訪問看護ステーション・香里 オープン

平成28年 4月1日

管理者 保健師
聲高 英代 (コエタカ ハナミ)



関医訪問看護ステーション・香里

現在は看護師3名、スタートして2カ月間で早くも20人の利用者さんと契約させていただきました。将来的には200人のご利用を構想しています。事務所は広く、十分な駐車場スペースを確保したのはそのためです。職員も20名程度まで増やす予定です。

- 退院後、ご自宅での療養がご心配な方
- 自宅でのリハビリを希望される方
- ご自宅での医療機器の使い方や、ご自身での医療処置が不安な方
- 服薬管理が不安な方
- 最期までご自宅での療養を希望される方

何でもお気軽にご相談ください！



- 電話 072-833-1222
- FAX 072-833-1200
- 営業時間 月曜～金曜 9:00～17:00
第1.3.5.土曜 9:00～13:00
※利用者様には日曜祝日も24時間救急対応しています。
- 住所 〒572-0082 大阪府寝屋川市香里本通町9番7号
- 訪問地域 寝屋川市、枚方市
※上記以外の地域もご相談ください。
- アクセス ●「香里園」駅(京阪本線)より徒歩3分
●関西医科大学香里病院より徒歩1分



大病院がもつ訪問看護ステーションとしての役割を担います。

2025年には3人に1人が高齢者となり、2035年には人口が減ると推計されています。関西医科大学は、変化する医療体制の中で地域において新たな役割を担うために訪問看護ステーションを開設しました。訪問看護ステーションは大学と地域医療・福祉をつなぐ場となります。

全国的に訪問看護ステーションをもつ大病院が増えています。関西では、本学の他に大阪医科大学、兵庫医科大学が訪問看護ステーションを開設しています。

大病院がもつ訪問看護ステーションは、大学や附属の病院と連携することで、既存のステーションがもつ役割に加えて新たな役割を担うことができると考えます。

病院併設に限らず訪問看護ステーションの開設は全国的に増えており、香里病院周辺にも多数のステーションがあります。当ステーションは、地域の医療機関及び近隣のステーションとも連携し、大病院の訪問看護ステーションとして、新たな役割を模索していきたく考えています。

関西医科大学と地域医療・福祉をつなぐ架け橋となります。

附属の3病院と地域の関係機関の皆様をつなぐ役割を担います。訪問看護師は病院と地域の両方に足を運び、現状を見て、声を聞くことができます。この利点を活かし、これまでに構築されている病院と関係機関の信頼関係をさらに強くする役割を担いたいと考えています。

また、大学・病院と地域をつなぐ役割を担います。行政や関係機関と連携し、地域住民を対象にした講演会や健康教

関西医科大学の3病院との連携、協働により、地域の住民の皆様が安心して安全な継続した看護を提供します。

病院と在宅において継続した看護やリハビリを提供します。訪問看護師は、退院前または外来受診時に、病院の看護師から医療処置の手法や看護ケアについて説明を受け、自宅で行える方法をともに考えます。訪問の開始後は、自宅の様子を病院の看護師に伝え、さらによりよいケアを考えていきます。

附属の3病院がもつ専門性の高い看護を提供します。訪問看護師は、大学や附属病院で行われる研修等に参加し、専門性の高い技術や知識の習得に努めています。また、病院の専門看護師等から技術や知識の指導を受けたり、同行訪問することで、自宅でより専門性の高い看護を受けていただくことができます。

附属の3病院の連携による緊急時の受入体制を整備しています。利用者の急変時には、基本的には香里病院での受入を行います。当院は救急機能を持たないため受入が困難な場合があります。必要がある場合には、附属の2病院での救急受入を行います。

室などを開催する事務局的な役割を担いたいと考えています。大学や病院から地域に専門的な知識や技術を伝えるとともに、大学や病院に対して地域の現状や課題、大学に求められているものを伝える機会といたします。

看護教育の場となります。

関西医科大学では平成30年の春に看護学部が新設されます。学生の地域看護の教育の場として活用されるほか地域の在宅医療・看護技術の向上のための教育の場としての役割を担っていきたく考えています。

関西医科大学天満橋総合クリニック 各専門医がそろった 都市型の総合クリニック



外来統括部長
北尻 雅則

クリニックは
日々新しくなっています。

天満橋総合クリニックは、関西医科大学附属病院グループの中では、唯一大阪市内に位置するクリニックです。旧OMMメディカルセンターの設立当初から、時代に先駆けて予防医療の重要性に着目し、がんの早期発見や生活習慣病の予防に大きな実績をあげてまいりました。天満橋総合クリニックとして再スタートしてからは、施設の改装、検査機器の充実を進め、さらに関西医科大学のグループ力を生かして、より高度な人間ドックや健診を行うことが

可能になりました。また、産業医活動も強化し、予防医療センターにふさわしい機能を充実させています。一方、外来部門も念願であった施設のリニューアルを行い、新しくきれいなクリニックに生まれ変わります。診療を継続しながら工事を行っており、まもなく完成の予定です。内視鏡検査室を充実させ、大腸内視鏡検査も視野に目指しているのは
専門医集団による最も
進んだ都市型の総合診療。

外来部門では、北尻雅則外来統括部長（耳鼻咽喉科部長）のもと、内科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科の専門医が診療にあたっており、さらに放射線科専門医、超音波専門医、消化器内視鏡専門医が診断支援を行い、当クリニックでほとんどの病気を診ることができま

す。今年から、消化器病専門医で内視鏡診断・治療を得意とする川股聖二医師が新たに加わり診療の幅がさらに広がりました。また、大阪府肝炎専門医

療機関の認定を受けました。耳鼻咽喉科では花粉症に対する舌下免疫療法も開始いたしました。超高齢化社会を迎え、ひとりでの病気をかかえている患者さんが多くなりましたが、ここに来れば、専門医集団による質の高い総合診療を受けることができます。病気の予防から、専門医による診断、治療まで、すべて揃った万全の体制が整っています。

関西医科大学の附属病院のみならず 地域の医療機関と広く連携。

- 北尻雅則（タタシリ マサノリ）プロフィール
- 略歴
 - 昭和52年 関西医科大学 卒業
 - 昭和53年 関西医科大学耳鼻咽喉科科学教室 入局
 - 昭和53年 大阪赤十字病院耳鼻咽喉科勤務
 - 昭和53年 関西医科大学医学部医学研究科大学院 博士課程（耳鼻咽喉科学専攻）入学
 - 昭和56年 米国 Pittsburg University, Eye and Ear Hospital, Research fellow
 - 昭和58年 関西医科大学耳鼻咽喉科科学教室 助手
 - 昭和59年 大阪北摂信徳病院耳鼻咽喉科勤務
 - 昭和61年 関西医科大学附属山形病院耳鼻咽喉科 出向
 - 昭和62年 関西医科大学耳鼻咽喉科科学教室 講師
 - 平成10年 関西医科大学附属山形病院耳鼻咽喉科 助教
 - 平成11年 関西医科大学耳鼻咽喉科科学教室 准教授
 - 平成19年 関西医科大学附属山形病院 病院教授
 - 平成23年 OMMメディカルセンター 耳鼻咽喉科部長
 - 平成24年 関西医科大学天満橋総合クリニック 外来統括部長（兼耳鼻咽喉科部長）
 - 主な資格
 - 日本耳鼻咽喉科学会認定専門医
 - 日本気管食道科学会専門医
 - 補聴器適合判定医
 - 日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医
 - 日本めまい平衡医学会認定めまい相談医
 - 医学博士



小児科 病院教授
谷内 昇一郎

小児科一般外来を
担当しています。

週に2日、火曜と金曜の午前に小児科の一般診療外来を行っています（金曜は第1、第3、第5の週のみ）。専門は食物アレルギーですが、小児科一般診療も長く行ってきた経験もあり、古巣へ戻った思いもあります。小児科医になつて40年近く経ちます。診療外来のレベル向上に少しでもお役に立てればと、科の先生とのカンファレンスやコミュニケーションも大切にしています。



「経口免疫療法 Q&A」(中山書店刊)に続いて「食物アレルギーの考え方（除去から摂取へ）」(中外医学社刊)

専門は食べることで治す
食物アレルギーです。

食物アレルギーという言葉は、最近こそよく聞きますが、20数年前にはなかった分野です。アトピーの原因を特定できるようになり、その食物を摂らない治療（除去）が進められてきた分野です。摂らないことでアトピーが治った小児も確かにいます。しかし原因となる食物を摂らない小児は、食物アレルギーがますます重症化します。これを根本的に治す経口免疫療法が私の専門です。

- 谷内 昇一郎
(タニウチ ショウイチロウ) プロフィール
- 昭和64年3月 日本医科大学卒業
 - 昭和64年5月 関西医科大学小児科学講座 入局
 - 昭和65年4月 関西医科大学大学院 博士課程小児科学専攻
 - 昭和69年3月 関西医科大学大学院 博士課程小児科学終了
 - 昭和69年4月 関西医科大学小児科学講座 助手
 - 昭和61年7月 カリフォルニア大学デービス校医学部小児科学・病理学にアシリエイト・スペシャリストとして留学
 - 平成6年3月 関西医科大学小児科学講座 講師
 - 平成15年9月 関西医科大学小児科学講座 助教授
 - 学難病治療センター 助教授
 - 平成16年1月 関西医科大学附属池井病院 小児科部長
 - 平成19年4月 関西医科大学附属池井病院 小児科病院教授
 - 平成24年4月 関西医科大学附属池井病院 感染対策部長
 - 平成26年4月 関西医科大学附属池井病院 小児アレルギー科科長
 - 平成28年4月 関西医科大学香里病院 小児科診療部長
 - （主な資格）
 - 日本小児科学会専門医、日本アレルギー学会指導医、専門医

香里病院の新任ドクターです。 どうぞよろしくお願いいたします。

頑張ります！ 内科 丸田 輝太郎 (マルタ キタロウ)	地域のお役に立てるように！ 内科 榎木 一仁 (サワラギ カズヒコ)	いのちだいじに！ 内科 今井 開 (イマイ カイ)	宜しくお願い申し上げます！ 内科 宮地 理彦 (ミヤジ ミチヒコ)
爽やかな目覚めを心がけています！ 麻酔科 串田 温子 (クシダ アツコ)	信頼される泌尿器科医に！ 腎泌尿器外科 吉田 崇 (ヨシダ タカシ)	頑張ります！ 整形外科 千原 一久 (チハラ カズヒサ)	未来ある子供のために！ 小児科 副島 和彦 (ソエジマ カズヒコ)